

# レセプト電算用マスターと MEDISの標準病名マスターにおける 指定難病病名の収載状況について

奈良県立医科大学 公衆衛生学講座

菅野沙帆, 久保慎一郎, 西岡祐一, 野田龍也, 今村知明

第40回医療情報学連合大会

2020年11月20日(金)

9:00-10:57 G会場

# 第40回医療情報学連合大会 (第21回医療情報学会学術大会) C O I 開示

---

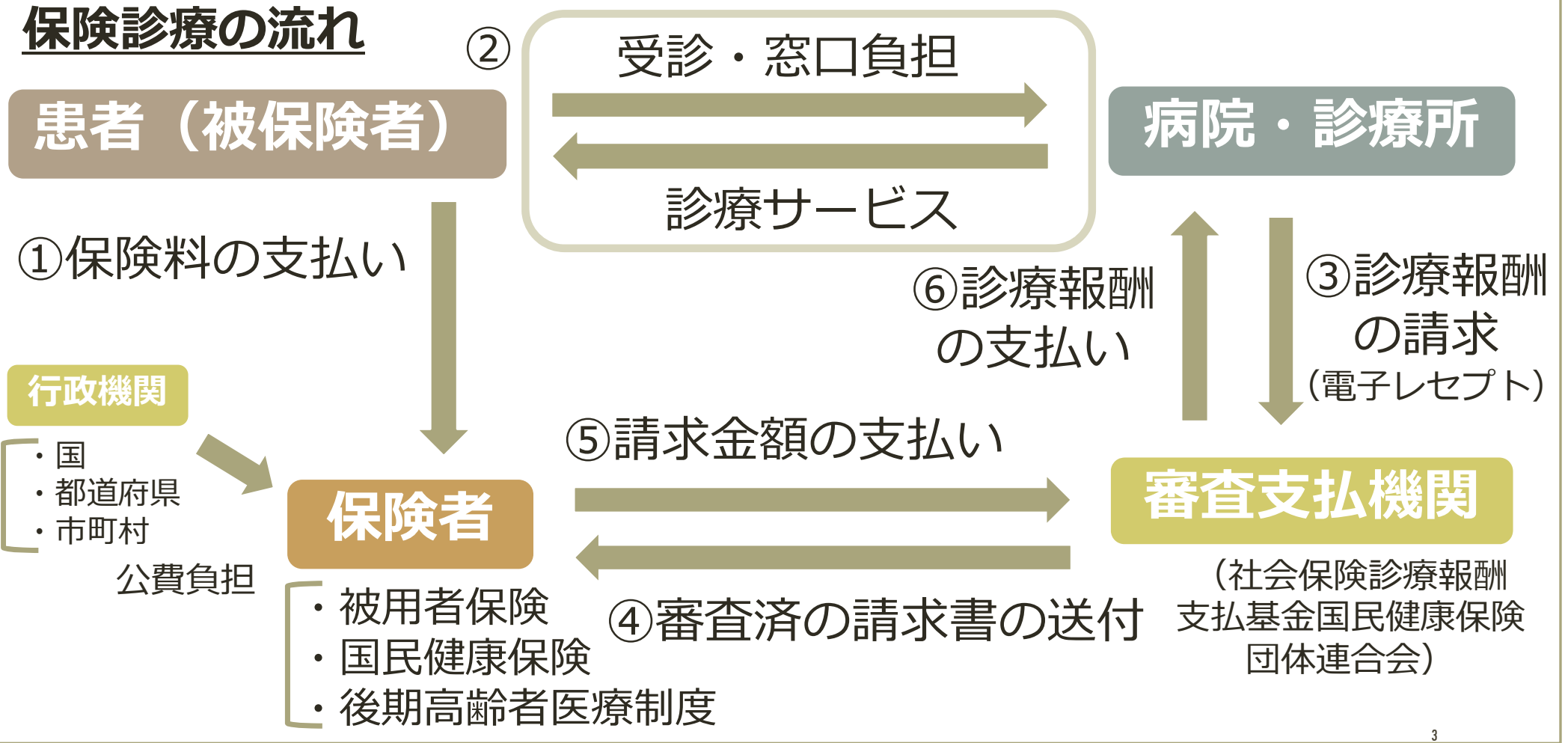
演題名： レセプト電算用マスターとMEDISの標準病名マスター  
における指定難病病名の収載状況について

筆頭演者名： 菅野沙帆, 久保慎一郎, 西岡祐一, 野田龍也, 今村知明

私が発表する今回の演題について開示すべきC O Iはありません。

# 背景① 医療保険制度

## 保険診療の流れ



## 背景② 傷病名記載の必要性

### 傷病名記載の必要性

#### ➤ 保険医の義務

- 患者の診療を行った場合には、遅滞なく必要な事項を**診療録**に記載しなければならない
- 保険医療機関が行う療養の給付に関する費用の請求が適切なものとなるよう努めなければならない

#### ➤ 診療報酬請求の根拠は診療録にある。

参考：厚生労働省保険局医療課医療指導監査室「保険診療の理解のために」【医科】平成30年度 p.13



**医学的に妥当な傷病名を診療録に記載する必要あり**

## 背景③ 各種傷病名と運用機関

### 傷病名の種類

病名コード・マスタ	運用機関
ICD-10	WHO(世界保健機関)
傷病名マスター	厚生労働省保険局
標準病名マスター	MEDIS-DC(医療情報システム開発センター)

※「傷病名マスター」と「標準病名マスター」は連携しており、管理コードの収載により各種マスターの病名は一致。また、ICD-10コードもコーディングされている。

### その他病名一覧

指定難病

告示病名以外の指定難病対象疾病名

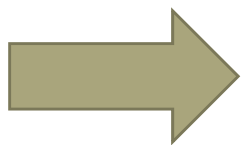
小児慢性特定疾患

## 背景④ 医療情報の標準化

---

- ◆ これら傷病名と各種マスター間の収載状況を調査した先行研究にて、病名の相違やマスターに未登録の疾患が存在することが明らかに

情報連携の効率化や質の高い医療の提供を目指し医療情報の活用が進められている中、医療情報の標準化が求められている。



このような標準化の流れにおいて医療用語やコード等の統一は不可欠である。

# 目的

---

1. MEDIS標準病名マスター、レセプト電算用マスターを用いて、指定難病、告示指定難病以外の疾病名との間で、病名の相違や未登録疾患の有無を調査。
2. 先行研究と比較し、それ以降の病名の収載状況を把握する。

# 方法

---

## 1. 病名一覧の入手

病名一覧	入手先
指定難病	厚生労働省ホームページ
告示以外の指定難病対象疾患名	難病情報センターホームページ
MEDIS標準病名マスター	標準病名マスター作業班ホームページ

## 2. MEDIS標準病名マスターの検索

「標準病名マスター病名検索」ページより病名を入力し、MEDIS標準病名マスターとレセプト傷病名マスターの収載状況を確認。

## 3. 先行研究との比較

先行研究以降の指定難病、告示病名以外の疾病名と標準病名マスターコード、レセプト傷病名マスターの間で新規追加された病名、削除された病名等収載状況を調査し、対照表を作成。



# 結果① 難病名、各種マスター間の対照表

▼難病情報センター、MEDIS標準病名マスター、傷病名マスターの対照表の一例

難病情報センター		MEDIS標準病名マスター				傷病名マスター		
指定難病名	告示病名以外の指定難病対象疾病名	病名交換用コード	病名管理番号	索引用語No.	索引用語	傷病名マスター	傷病名基本名称	
大脳皮質基底核変性症	大脳皮質基底核変性症	G238	20084775	1	大脳皮質基底核変性症	8841403	大脳皮質基底核変性症	
				2	皮質基底核変性症			
ハンチントン病	ハンチントン病	G10	20052543	1	ハンチントン病	8843948	ハンチントン病	
				2	ハンチントン舞踏病			
				3	HUNTINGTON病			
				4	HUNTINGTON舞踏病			
	若年型ハンチントン病	若年型ハンチントン病	G10	20095515	1	若年型ハンチントン病	8846154	若年型ハンチントン病
					2	若年型HUNTINGTON病		
神経有棘赤血球症	神経有棘赤血球症	E786	20100461	1	神経有棘赤血球症	8848266	神経有棘赤血球症	
	有棘赤血球舞踏病		20077381	1	有棘赤血球舞踏病	3335006	有棘赤血球舞踏病	
	Mcleod症候群		20100640	1	マクラウド症候群	8848306	マクラウド症候群	
			2	MCLEOD症候群				

## 結果② 各種マスターに未登録の指定難病名

- MEDIS標準病名マスター及びレセプト傷病名マスターに指定難病名が未登録のため病名を検索できない

▼MEDIS標準病名マスター及びレセプト傷病名マスターに未登録の告示指定難病一覧

告示番号	指定難病名
19	ライソゾーム病
72	下垂体性ADH分泌異常症
74	下垂体性PRL分泌亢進症
76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症
81	先天性副腎皮質酵素欠損症
98	好酸球性消化管疾患
138	神経細胞移動異常症

## 結果③ 各種マスタ間で病名が一致しないもの

- 病名が一致しないもの198件、その内大文字小文字の違い119件（全2670件中）

▼各種マスタ間で病名が一致しないものの一例

告示番号	指定難病名	告示病名以外の指定難病対象疾病名	MEDIS標準マスター	レセプト傷病名マスター
38	スティー <b>ヴ</b> ンス・ジョンソン症候群		スティー <b>ブ</b> ンス・ジョンソン症候群	
90	網膜色素 <b>変性症</b>		網膜色素 <b>変性</b>	
102	ルビン <b>シュ</b> タイン・ティビ症候群		ルビン <b>ス</b> タイン・ティビ症候群	
299	<b>囊</b> 胞性線維症		<b>のう</b> 胞性線維症	
333	ハッチンソン・ギルフォード症候群			早老症

## 結果④ レセプト傷病名マスターに未登録の疾患名

- MEDIS標準病名マスターの索引用語のみに登録されており、標準病名表記ではないため、レセプト傷病名マスターと一致しない可能性

### ▼レセプト傷病名マスターに未登録の疾患名一例

告示番号	告示病名以外の 指定難病対象疾病	MEDIS標準病名マスターの牽引用語	レセプト傷病名 マスター
13	デビック病	デビック病	登録なし
13	Baló病(バロー同心円硬化症)	バロー同心円硬化症	
16	高月病	高月病	
16	クロウ・深瀬症候群	クロウ・深瀬症候群	
19	ムコリピドーシスII型	ムコリピドーシスII型	
19	フコシドーシス	フコシドーシス	
22	ウィリス動脈輪閉塞症	ウィリス動脈輪閉塞症	
27	ファール(Fahr)病	ファール病	
34	レックリングハウゼン病	レックリングハウゼン病	

## 結果⑤ 同一病名が複数告示指定難病名に登録

- 同一病名が複数の指定難病名にまたがって登録されている

告示病名以外の指定難病対象疾病名	告示番号	指定難病名
バージャー病	47	バージャー病
	66	IgA腎症
22q11.2欠失症候群	65	原発性免疫不全症候群
	203	22q11.2欠失症候群
神経フェリチン症	120	遺伝性ジストニア
	121	神経フェリチン症
単心室循環器症候群	210	単心室症
	211	左心低形成症候群
	212	三尖弁閉鎖症
	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症
ネザートン症候群	160	先天性魚鱗癬
	65	原発性免疫不全症候群 <sub>3</sub>

# 考察① 各種マスターの収載状況について

▼難病情報センター、MEDIS標準病名マスター、傷病名マスターの対照表の一例

難病情報センター			MEDIS標準病名マスター				傷病名マスター	
告示番号	指定難病名	告示病名以外の指定難病対象疾病名	病名交換用コード	病名管理番号	索引用語No.	索引用語	傷病名マスター	傷病名基本名称
44	多発血管炎性肉芽腫症	多発血管炎性肉芽腫症	NJSJ	20100467	1	多発血管炎性肉芽腫症	8848381	多発血管炎性肉芽腫症
44					2	WEGENER肉芽腫症	なし	
44		ウェゲナー肉芽腫症			3	ウェゲナー肉芽腫症		
44					4	ウェジェナー肉芽腫症		
44					5	ウェジナー症候群		
44					6	ウェジナー肉芽腫症		

- 傷病名マスターに未登録であってもMEDISの「病名交換コード」により連携
- 難病名がMEDIS標準病名マスターの「索引用語」に新たに追加

▶別名での検索可能範囲が増えており、先行研究以降もマスタ整備が進められている

## 考察② マスター整理の必要性

---

▶病名と各種マスター間で一部整理されていないものもあり

- 病名登録は患者状態を記録し診療の根拠とする目的あり、正確な記録が必要
- 特に難病は希少な疾患であり別名が多いこと、今後も絶え間なく研究され新たな病気が発見される可能性あり



新たな病名追加が常に必要な状況であり、定期的なマスターの整理が必要であると考えられる。

## 考察③ マスターに未登録・異なる病名等が混在する要因

### 現状

- MEDISにより2006年以降標準病名マスターが作成されて以降改定を重ね、ほとんどの病名を網羅
- マスターの追加や削除、修正等のメンテナンス作業では班会議や各学会での審議が行われている
- 医学の進展により新たな疾患の発見

### ➤ **マスターメンテナンス作業は多くの時間と労力を要する**



マスターに未登録の病名や異なる病名等が混在する要因の一つである可能性



## 考察④ 今後の検討事項

---

### ➤未コード化傷病名（傷病名コード「0000999」）の使用状況

未コード化傷病名のうち約80%は基本病名が存在し、用語が存在していても紐づけされていないという報告あり（大江, 2010）。

→病名マスターの整備だけでなく、適切に病名を検索できる機能、適切な病名登録等、双方で改善されることが必要。

### ➤診療録を使用したレセプト研究の促進

診療録を分析することで新たな医学的知見の獲得、さらなる医学の発展

# 結論

---

- 告示指定難病や告示以外難病名の追加や削除、標準病名マスターの追加など一部変化があり収載状況の整理が出来た。
- 索引テーブルに新たに病名が追加されており、同義語での検索可能範囲が増えた。
- 一方で、告示指定難病名が未登録の病名、マスター間で病名の差異があり継続したマスター整備が必要であると示唆された。

# 謝辞

---

本研究は下記研究の一環として行われたものである。

- ◆厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）  
地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究  
（H30-医療-一般-013）